

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月2日(木)

《時間は止まらないもの -今を大切に、愛の気持ちで生きましょう-》

「しばらくすると」というのは、どういう意味でしょうか。今日の福音(ヨハネ 16・16 - 20)で弟子たちは、“イエス様が「しばらくすると」と言っているのはどういうことか”と疑問を持ちましたね。皆様はどうのことだと思われますか? 「しばらくすると」というのは「もう少し経つと」とか「あと少し経つと」という意味ですね。弟子たちはなぜ、この「しばらくすると」の意味が分からなくて論じ合ったのでしょうか。これには、深い意味が隠れていると私は思います。

皆様は、子どもの頃のことを覚えていますね。私も覚えています。よいことも悪いことも、嬉しかったことも悲しかったことも、思い出そうとすれば浮かんできますよね。私も同じです。子どもの頃に兄にいじめられたこと、逆に兄にしてもらって嬉しかったこと、母に嘘をついて叩かれたこともあるし、嘘をついたことで褒められたこともあります。皆様もいろいろな思い出があると思います。この思い出を一言で表せば「過去」となります。

今日は少し哲学的な話をしようと思います。今私が話しているこの瞬間も、去ってしまえば返って来ない時間です。止まらないのが時間というものです。聖書にも「千年といえども御目には昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。」(あなたの目には、千年も、昨日のように過ぎ去り、夜回りのひとときのようなのです。)(詩篇 90・4)という表現があります。信仰の目で見たら、高齢の方の年齢と私の年齢も差がないものなのです。「私は年をとっている。」、「私は生まれたばかりで時間がたくさんある。」と思う愚かさは避けなければならないでしょう。結局、時間は、流れて去ってしまい、戻って来ないものです。だから私たちは、毎瞬を本当に意味深く、意味を求めながら、意味を作りながら生きなければならないのです。そうしなければ、何も出来ないまま過ぎてしまうのが、時間というものです。

今、父子と一緒に祭壇の上で侍者をしています。そして侍者をしている子どもの兄は前の席に座ってお父さんと弟が侍者をするのを見えています。彼も気付かないうちにすぐお父さんの年齢になってしまい、お父さんが侍者をしたことを思い出すのでしょうか。

時間というものは、全ての人が必ず「ああ、もっとよく過ごせばよかった。」と思うものです。他の人からは「やりがいのある人生を送ってきた。」と言われている人でも、本人は、「ああ、もう少し頑張って、もう少し知恵を使って、もう少し我慢していればもっと上手く生きられたのに。」という気持ちになるものです。私たちにとって避けられない気持ちだと思います。私も振り返ってみれば、後悔することばかりです。「よかった。」と思うことより、「なぜ、こうなってしまったのか。」と思うことのほうがたくさんあります。皆様も同じではないでしょうか。

信仰的には、過去に満足することは危ない考えです。なぜならば、満足してしまうと未来は発展的にならないからです。しかし「私は失敗だった、失敗だった。」と否定的に思いこんでしまうのもよく

ないことです。私が申し上げたいのは、信仰的な目で過去を消化し、受け入れ、現在を見ながら未来を前向きに生きて行かなければならないということです。

私がこの教会に来たのは4年前です。その時は、どのくらいここにいられるのか、どのくらい皆様と一緒に過ごせるのか、という気持ちでした。しかし、いつの間にかもう4年も経ってしまい、そろそろ異動の知らせが届くのではないかと思う時期になってしまいました。今、70歳、80歳を超えている先輩司祭たちを見ると、「この方たちのために配慮しなければならない。」という気持ちになります。しかし、いつか私もその年齢になってしまうのでしょうか。つまり、今の時間が一番大事な時間なのです。それを軽んじてしまうと、過去も未来も駄目になります。そう意識することが何よりも必要なことだと今日の福音を読んで考えてみました。

実際にはこの「しばらく」は、100年後か、1000年後か、一週間後か、分かりません。一人ひとりの人生を振り返ってみれば、100年前も昨日のような感じになってしまうのかもしれない。正直に言えば、私も今までに過ぎてきた50年という時間は、本当にあっという間でした。何をしてきたのか分からないくらい早く過ぎ去ってしまいました。私たちは、このようにあっという間に過ぎてしまう時間に対して、責任を持つとする努力が何よりも必要ではないかと思います。いつか私も、父の年齢になり、母の年齢になり、振り返ってみる時が来るのでしょうか。その時、「幸せな人生だった。いろいろな棘があったけれど、神様の愛をたっぷりいただき、しっかり乗り越えて今まで生きて来られた。」という告白ができるように精一杯頑張らなければならないと思います。

結局大切なのは愛することです。時間を愛し、自分の生き方も愛し、全ての関わりを出来るだけ愛の目で見ようとしましょう。そのような生き方をして、もし喧嘩になっても、反発する交わりがあっても、それはそれでよいと思います。私が本当にこの人生を愛しているのか、愛そうとしているのか、それが基準にならなくてはいけないと思います。もしそういう自分との闘いが続けられれば、どんな悲しいことがあっても、嬉しいことがあっても、中心にある心は変わらないのではないのでしょうか。

しばらくすると、私たちは神様から判断される日が来ると思います。時には恐れ、時には喜び、時には感謝し、時には希望しながら、今の瞬間を何とかよく生きようとする働きが必要ではないかと思ってみました。

ありがとうございました。